

領域	統合分野	対象学年	3年	開講時期	前期
科目	看護管理	単位(時間)	1単位(30時間)		
講師名 所属	力武 一久 嬉野医療センター 病院長(医師) 辻丸 祐規子 嬉野医療センター 看護部長 認定看護管理者 穴井 久美子 嬉野医療センター 副看護部長 猿渡 千恵 嬉野医療センター 副看護部長 川原 直美 嬉野医療センター 教育担当看護師長 山本 真由美 嬉野医療センター附属看護学校 教育主事				
科目目標： 1. 地域における病院の役割と機能及び政策医療の特徴を理解できる 2. 看護師の役割と政策医療に関する看護の特殊性を理解できる 3. 患者に安全で安楽なサービスを提供するための看護管理を理解できる 4. 看護の動向や問題点を知り、既習した看護の概念や理論と統合し、倫理観や自己の看護に関する考えを深めることができる					
授業概要： 看護管理は、看護を仕組みとしてとらえ、資源を有効利用し、よりよい看護を提供するためにはどうすればいいのかを追求していくことである。また、チーム医療および他職種との協働のなかで看護師としてのメンバーシップ、リーダーシップのあり方、組織における看護師の役割を理解し、病院の機能と看護サービスの管理(マネジメント)について学ぶ。また看護職の職業倫理、倫理的ジレンマについては具体的事例を通して自己の考えを深める。					
授業計画					
回数	講義内容	講義形式	担当講師		
1～2	1. 病院の役割と機能 2. 国立病院機構が担う医療 1) 国立病院機構の使命(ミッション) (1) 幅広い医療 (2) 地域医療構想の推進による「地域完結型医療」の実践 (3) 臨床研究と教育研修のより一層の充実	講義	力武 一久		
3～4	1. 看護とマネジメント 2. 看護サービスのマネジメント 1) 組織として看護サービスをマネジメント 2) 組織目標達成のマネジメント (1) 理念の形成と浸透 (2) 看護の組織化 3. 組織とマネジメント 1) 組織構造と組織原則 2) マネジメントの基本 4. 国立病院機構の看護の機能と役割 5. 嬉野医療センターの看護理念	講義	辻丸 祐規子		

回数	講義内容	講義形式	担当講師
5～7	1. 看護ケアのマネジメント <ul style="list-style-type: none"> 1) 看護ケアマネジメントと看護職の機能 2) 患者の権利の尊重 3) 安全管理 2. チーム医療 <ul style="list-style-type: none"> 1) チーム医療に必要な機能 2) 看護専門職の責任と役割 3) 他職種との連携・協働 3. 看護業務の実践（日常業務のマネジメント） <ul style="list-style-type: none"> 1) 看護業務 2) 看護基準と看護手順 3) 情報の活用 4) 日常業務の組み立て方、優先順位の決定 	講義	穴井 久美子
8～10	1. 看護サービス提供のしくみづくり <ul style="list-style-type: none"> 1) 看護単位の機能と特徴 2) 看護ケア提供システム 2. 労働環境 <ul style="list-style-type: none"> 1) 労働時間 2) 勤務体制 3) 雇用体制 3. 施設・設備環境のマネジメント	講義	猿渡 千恵
11～12	1. 人材のマネジメント <ul style="list-style-type: none"> 1) キャリアディベロップメント <ul style="list-style-type: none"> (1) 新人教育・研修 (2) 現任教育・研修 2) 人材フローのマネジメント <ul style="list-style-type: none"> (1) インフロー (2) 内部フロー (3) アウトフロー 2. 看護職員の教育制度 <ul style="list-style-type: none"> 1) 継続教育 2) 専門看護師・認定看護師制度, 認定看護管理者制度, 特定行為研修 3. 看護職員の養成	講義	川原 直美

回数	講義内容	講義形式	担当講師
13	1. 看護に関連する諸制度 1) 国レベルの看護行政 2) 近年の看護制度等に関する検討会	講義	山本 真由美
14～15	1. 看護職の法的責任 2. 看護職の職業倫理 3. 看護倫理・倫理的ジレンマ ジョンセン4分割表を用いた事例分析	講義・演習	山本 真由美
	試験		

テキスト

1. 系統看護学講座 専門分野 看護管理 看護の統合と実践〔1〕 医学書院

参考文献

1. 系統看護学講座 基礎看護学[1]看護学概論, 医学書院
2. 小西恵美子: 看護倫理 よい看護・よい看護師への道しるべ 南江堂
3. 日本看護協会監修: 新版 看護者の基本的責務 定義・概念/基本法/倫理, 日本看護協会出版会, 2009
4. 吉田みつ子: 看護倫理 見ているものが違うから起こること, 医学書院, 2013
5. 看護六法 2021年度版 新日本法規
6. 国民衛生の動向 2020/2021 厚生労働統計協会

評価方法

筆記試験 レポート (別紙評価計画参照)

領 域	統合分野	対象学年	2 年	開講時期	前期
科 目	医療安全	単 位 (時間)	1 単 位 (30 時間)		
講師名	中島 恵 嬉野医療センター 医療安全管理係長				
所 属	江下 栄子 嬉野医療センター附属看護学校 専任教員 実務経験:看護師 8 年				
科目目標 :					
1. 医療システムにおける医療安全管理の必要性を理解できる 2. 医療安全管理を行う上で必要な基礎的知識を理解できる					
授業概要 :					
<p>医療技術の発達や看護の対象者の多様化、医療事故に対する社会の意識の向上により、「安全な医療の提供」が求められている。医療安全の確保には、個々の医療従事者と医療システム双方の安全強化が欠かせないといわれている。そのため基礎看護学の医療・療養環境を支える技術で学習した安全の概念をふまえて、病院で行われている医療安全管理の実際について学ぶ。また患者の看護をし、提供される医療のほぼすべてに関与する看護師の役割は大きいことから、演習では事例等を用いて看護業務の中での医療安全について学ぶ。</p>					
授業計画					
回数	講義内容	講義形式	担当講師		
1～5	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護業務と医療事故の現状 2. 医療安全対策の変遷 3. 組織における医療安全対策 4. 医療事故と法的責任 5. 病院組織における医療事故に対する安全対策 <ol style="list-style-type: none"> 1) 事故報告書によるリスクの把握 2) リスクの分析 <ol style="list-style-type: none"> (1) 分析方法 <ol style="list-style-type: none"> ①SHEL 分析法 ②4M-4E 分析法 ③RCA 分析法 3) リスク分析の実際 <ol style="list-style-type: none"> (1) pmSHELL 分析 (演習) 4) リスクへの対応 <ol style="list-style-type: none"> (1) 事故防止対策の立案、職員への周知徹底 (2) 医療事故調査委員会、医療機関への報告 (3) 医療安全に関する教育・研修の企画 (4) 医療安全情報の配信 (5) 医療事故防止マニュアルの整備 5) 事故発生時の対応 <ol style="list-style-type: none"> (1) システムとしての事故防止の具体例 <ol style="list-style-type: none"> ①患者間違い防止 ②療養上の世話の事故防止 ③診療の補助の事故防止 	講義・演習	中島 恵		

回数	講義内容	講義形式	担当講師
6～8	1. 看護事故防止の考え方 1) 患者側要因と医療者側要因の2軸からみた看護事故 (1) 間違いによる事故を防ぐ3ステップ ①看護師が行う業務プロセスに潜む危険 ②薬剤や医療機器自体がもつ危険（薬剤の危険な間違い、医療機器操作の危険な間違い） (2) 危険の予測・評価に基づく事故防止の2ステップ	講義・演習	江下 栄子
9～15	1. 看護業務と事故防止 1) 与薬に対する医療安全 (1) 注射業務と事故防止 ①注射事故防止の考え方 ②看護業務の視点で考える注射業務の危険と要因 ③注射事故防止のために求められる知識と技術 ④輸液ポンプ・シリンジポンプでの事故防止 ・操作間違いによる過剰送液 ・皮下漏れ (2) 輸血業務と事故防止 ①輸血業務における間違いの危険と要因 (3) 内服与薬業務における危険と要因（演習） ①指示受け ②与薬準備 ③与薬 ④与薬後の観察 2) チューブ類挿入中の医療安全 (1) 経管栄養業務と事故防止 ①看護業務の視点で考える経管栄養業務の危険と要因 (2) チューブ管理と事故防止 ①チューブ管理における事故防止の視点 ・中心静脈ライン ・気管チューブ ・ドレーン 3) 療養生活に対する医療安全 (1) 療養上の世話における事故発生要因と事故防止の視点 (2) 転倒・転落事故防止 (3) 誤嚥・異食・熱傷 4) KYT 演習	講義・演習	江下 栄子
	試験		

テキスト

1. 系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践[2] 医療安全 医学書院

参考文献

1. 医療安全ワークブック第3版 医学書院
2. 医療事故第2版 看護の法と倫理の視点から 医学書院
3. 医療安全ことはじめ 医学書院
4. 写真でわかる看護安全管理 事故・インシデントの背景要因の分析と対策 インターメディカ
5. 学生のためのヒヤリ・ハットに学ぶ看護技術 医学書院

評価方法

筆記試験 レポート (別紙評価計画参照)

領域	統合分野	対象学年	3年	開講時期	前期
科目	広域看護方法論	単位(時間)	1単位(30時間)		
講師名 所属	神谷 保彦 長崎大学 熱帯医学グローバルヘルス研究科 教授 河上 ひとみ 嬉野医療センター 集中ケア認定看護師 小野原 貴之 嬉野医療センター 救命救急科医師 村上 愛美 嬉野医療センター 看護師				
科目目標： 1. 国際的な健康問題や看護の国際協力の組織・しくみについて理解できる 2. 国際看護の実際について知り、諸外国との協力や看護師としての役割を考えることができる 3. 災害看護の実践に結びつく基礎的知識を理解し、技術・態度・行動力を習得することができる					
授業概要： グローバル化が進んだ現代の世界においては、わが国だけでなく地球上のあらゆる人々の健康を考えていく必要がでてきた。世界ではどのような問題が起こっていて、人々は何に苦しんでいるのかを知り、それに対し看護師は何ができるかを国際看護の内容で学ぶ。 災害看護では、近年地震や洪水、土砂災害などの災害の頻度や規模が拡大し、被害も増大してきている。このような状況の中で、被災傷病者の医療・看護への期待は大きくなっている。そのため災害看護を実践できる能力を養えるよう、基礎的な知識について実際の活動を交えながら学ぶ。 救急看護とは、突発的な外傷、急性疾患、慢性疾患の急性増悪などのさまざまな状況によって、救急処置が必要な対象に実施される看護活動で、救急看護は全ての看護職が実施しなければならない看護である。そのため救急看護の役割を理解し、救急活動の実際を学ぶ。					
授業計画					
回数	講義内容	講義形式	担当講師		
1～3	1. 国際看護の概念 1) 国際看護とは 2) グローバルヘルスと国際看護 2. 国際看護の実際 1) 文化を考慮した看護 2) 国際看護活動の実際 3. 国際協力のしくみ 1) 国際協力とは 2) 国際協力に関わる機関 3) 日本の国際協力のありかた	講義	神谷 保彦		

回数	講義内容	講義形式	担当講師
4～6	1. 救急看護とは 2. 救急看護の場 3. 救急看護の役割 4. 救急医療施設と救急医療体制	講義	河上 ひとみ
7	1. 救急看護体制 1) 救急外来における看護 (1) 救急外来の役割 (2) 救急医療施設到着からの流れ (3) 救急患者とその家族への心理的援助 2) 入院患者の急変	講義	河上 ひとみ
8	2. 救急活動の実際 1) 救急外来における救急看護の実際 (1) 看護の実際 ①胸部外傷患者の受け入れから診断、ICU 移送までの看護 ②熱中症患者の受け入れから診断、ICU 移送までの看護	講義	河上 ひとみ
9～10	1. 救命救急処置 1) 一次救命処置と二次救命処置 2) 心肺蘇生のプロトコール 3) 二次救命処置（ALS）の実際	講義・演習	小野原 貴之
11～13	1. 災害看護の定義と健康障害 2. 災害医療の特徴と実際 1) 災害医療の特徴 2) 災害時の医療活動の実際（演習）	講義・演習	
14～15	1. 災害看護の特徴と看護活動 1) 災害看護の特殊性 2) 被災者特性に応じた災害看護 3) 災害による心のケア	講義	村上 愛美
	試験		

テキスト

1. 系統看護学講座 救急看護学 医学書院
2. 系統看護学講座 専門分野 災害看護学・国際看護学 看護の統合と実践〔3〕 医学書院

参考文献

1. クリティカルケア実践の根拠 照林社
2. ICU・CCU 看護 医学書院
3. 急変アセスメント 照林社
4. BLS：写真と動画でわかる一次救命処置 学研メディカル秀潤社
5. ALS：写真と動画でわかる二次救命処置 学研メディカル秀潤社
6. 災害現場でのトリアージと応急処置 日本看護協会出版会
7. 災害看護 心得ておきたい基本的な知識 南山堂
8. いのちとこころを救う災害看護 災害サイクルからみた各期の対応 学研メディカル秀潤社

評価方法

筆記試験 レポート（別紙評価計画参照）

領域	統合分野	対象学年	3年	開講時期	前期															
科目	看護総合技術	単位(時間)	1単位(30時間)																	
講師名	江下 栄子	嬉野医療センター附属看護学校	専任教員	実務経験:看護師8年																
所属	鳥井 太貴	嬉野医療センター附属看護学校	専任教員	実務経験:看護師9年																
<p>科目目標:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 既習の知識・技術を統合し、臨床場面で遭遇する対象の状況に応じた看護を実践する能力を養う 2. 多重課題が発生したときの優先順位を考慮した判断能力を養う 3. 研究的視点を養い、看護実践能力を向上できる 																				
<p>授業概要:</p> <p>臨床に近い形での演習を用いながら、専門分野で学習した既習の知識・技術を統合する。2011年に新人看護職員ガイドラインが策定されたため、その到達目標を知り、看護職員としての必要な姿勢、態度、知識、技術を学ぶ。今回、臨床場面で遭遇する対象の状況を設定した事例をもとに、優先順位やタイムマネジメントを考え看護業務を実践する能力を養うことを目的に学ぶ。</p> <p>また、ケーススタディにおいては、あらゆる対象の健康上の問題を対象や場の個別性に応じて実践し、実施した援助を文献を通して価値つけていく。論理学で学んだ論理的思考や看護研究で学んだクリティーク、研究プロセスを活用しながら論文を作成していく。</p>																				
<p>授業計画</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>講義内容</th> <th>講義形式</th> <th>担当講師</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td> 1. 看護実践能力の理解 1) 看護実践に必要な能力 2) 看護実践能力の育成に必要な視点 </td> <td>講義</td> <td>江下 栄子</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td> 1. 臨床場面で遭遇する看護の実践 1) 多重課題に対する実践 (1) 優先順位の考え方 (2) タイムマネジメントと行動計画立案の視点 </td> <td>講義</td> <td rowspan="2">江下 栄子</td> </tr> <tr> <td>3~5</td> <td> 2) 看護の実際 (1) 対象の状況に応じた看護の実践 ①フィジカルアセスメント ②観察技術 ③観察のポイントとその根拠 ④看護の実践 (看護診断、看護計画にそった看護の実践) </td> <td>演習</td> </tr> </tbody> </table>						回数	講義内容	講義形式	担当講師	1	1. 看護実践能力の理解 1) 看護実践に必要な能力 2) 看護実践能力の育成に必要な視点	講義	江下 栄子	2	1. 臨床場面で遭遇する看護の実践 1) 多重課題に対する実践 (1) 優先順位の考え方 (2) タイムマネジメントと行動計画立案の視点	講義	江下 栄子	3~5	2) 看護の実際 (1) 対象の状況に応じた看護の実践 ①フィジカルアセスメント ②観察技術 ③観察のポイントとその根拠 ④看護の実践 (看護診断、看護計画にそった看護の実践)	演習
回数	講義内容	講義形式	担当講師																	
1	1. 看護実践能力の理解 1) 看護実践に必要な能力 2) 看護実践能力の育成に必要な視点	講義	江下 栄子																	
2	1. 臨床場面で遭遇する看護の実践 1) 多重課題に対する実践 (1) 優先順位の考え方 (2) タイムマネジメントと行動計画立案の視点	講義	江下 栄子																	
3~5	2) 看護の実際 (1) 対象の状況に応じた看護の実践 ①フィジカルアセスメント ②観察技術 ③観察のポイントとその根拠 ④看護の実践 (看護診断、看護計画にそった看護の実践)	演習																		

回数	講義内容	講義形式	担当講師
6～9	1. 多重課題演習 1) 複数の患者に対する看護の実践 ①優先順位 ②タイムスケジュール ③観察・アセスメントの実際 ④患者への援助	講義・演習	江下 栄子
10～12	1. 臨床で遭遇する診療援助に関する看護技術 1) 輸血 2) 静脈内留置針を用いた点滴静脈内注射	講義・演習	
13～15	1. ケーススタディ 1) 目的・意義 2) 研究計画書の記載 3) 文献クリティーク 4) 論文作成	講義・演習	鳥井 太貴
	試験		

テキスト

1. 黒田裕子の看護研究 Step by Step 医学書院
2. 看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方, 照林社
3. 系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践[1] 看護管理, 医学書院

参考文献

1. 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 医学書院
2. 臨床看護技術パーフェクトナビ 学研メディカル秀潤社
3. 根拠と急変対応から見たフィジカルアセスメント 医学書院
4. ドレーン&チューブ管理マニュアル 学研メディカル秀潤社
5. 今日の治療薬 2019 南江堂

評価方法

筆記試験 レポート (別紙評価計画参照)

領域	統合分野	対象学年	3年	開講時期	後期				
科目	統合実習	単位(時間)	2単位 (90時間)						
講師名 所属	江下 栄子 嬉野医療センター附属看護学校 専任教員 実務経験:看護師8年								
<p>実習目的・目標：</p> <p>統合実習は、これまで講義・演習・実習で学んだ知識と技術を統合し、3年間の集大成として到達すべき看護師像に近づけるための実習である。そのたま実習では、看護のマネジメントについて学ぶ。これからの看護職は、専門職として自立・自律した存在を目指しており、1人ひとりの看護職が看護管理の方法を修得することが求められている。患者－看護師関係で、患者に提供するケアをマネジメントすること、そして患者に提供するケアを組織的にマネジメントする看護サービスをマネジメントする、この2つのマネジメントを中心に実習をしていく。</p> <p>看護ケアのマネジメントは、複数の患者を受け持ち、日常の看護業務を実施できるよう優先順位やタイムスケジュールを考えていく。またその患者が必要としている多職種による支援も視野に入れながら考えていくことができるように医療チームやチーム医療に必要な知識を学ぶ。</p> <p>看護サービスのマネジメントは看護ケアの提供システムを理解し、各勤務帯の状況と持続性を持った看護実践の実際を理解する。また組織における看護サービスのマネジメントとして、医療職種の業務の範囲を知り、チーム医療の連携・協働の実際を学ぶ。また人材のマネジメント、施設・設備のマネジメント、物品のマネジメント、情報のマネジメントについて理解する。</p>									
<p>授業概要：</p> <p>複数の受け持ち患者を通して看護ケアのマネジメントについて学ぶ。患者に提供されるケアは、看護職が提供するケアだけに限らず、医師、医療関係職種や患者の療養生活にかかわるすべての人々によって提供されるものであることを実習を通して学ぶ。</p> <p>組織における看護サービスのマネジメントに対して、医療チームのそれぞれの役割を病棟や外来において見学し、チーム医療をしていくうえでの連携・協働について学ぶ。また病棟管理者である看護師長の話聞き、実際の行動を共にすることで看護サービスのマネジメントを学ぶ。</p>									
<p>授業計画</p> <p>1. 実習目標および実習内容</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>実習目標</th> <th>実習内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1. 複数の患者を受け持ち、ケアの優先順位の考え方と看護の実際が理解できる。</td> <td> 1) 複数の受け持ち患者の状態の把握 1) 2人の受け持ち患者の情報収集 2) 受け持ち患者の全体像の把握 (関連図記載) 3) 看護上の問題点の明確化 2) 複数の患者を看護する際の優先順位の判断 1) 優先順位の判断基準 2) タイムマネジメントを考えた行動計画立案 3) 患者の病状変化に合わせたタイムスケジュールの修正 3) 立案した計画について指導者とともに援助の実施 1) 援助実施前中後の受け持ち患者の状態の把握 2) 患者が納得できる説明、同意を得る 3) チーム内での協力・スタッフへの協力依頼・情報共有 4) 実施した援助の評価 </td> </tr> </tbody> </table>						実習目標	実習内容	1. 複数の患者を受け持ち、ケアの優先順位の考え方と看護の実際が理解できる。	1) 複数の受け持ち患者の状態の把握 1) 2人の受け持ち患者の情報収集 2) 受け持ち患者の全体像の把握 (関連図記載) 3) 看護上の問題点の明確化 2) 複数の患者を看護する際の優先順位の判断 1) 優先順位の判断基準 2) タイムマネジメントを考えた行動計画立案 3) 患者の病状変化に合わせたタイムスケジュールの修正 3) 立案した計画について指導者とともに援助の実施 1) 援助実施前中後の受け持ち患者の状態の把握 2) 患者が納得できる説明、同意を得る 3) チーム内での協力・スタッフへの協力依頼・情報共有 4) 実施した援助の評価
実習目標	実習内容								
1. 複数の患者を受け持ち、ケアの優先順位の考え方と看護の実際が理解できる。	1) 複数の受け持ち患者の状態の把握 1) 2人の受け持ち患者の情報収集 2) 受け持ち患者の全体像の把握 (関連図記載) 3) 看護上の問題点の明確化 2) 複数の患者を看護する際の優先順位の判断 1) 優先順位の判断基準 2) タイムマネジメントを考えた行動計画立案 3) 患者の病状変化に合わせたタイムスケジュールの修正 3) 立案した計画について指導者とともに援助の実施 1) 援助実施前中後の受け持ち患者の状態の把握 2) 患者が納得できる説明、同意を得る 3) チーム内での協力・スタッフへの協力依頼・情報共有 4) 実施した援助の評価								

実習目標	実習内容
<p>2. 夜間（遅出勤務帯）実習を体験し、就寝までの患者の状況や夜間における看護について理解できる。</p>	<p>1) 就寝までの患者の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 夜間帯の看護体制 (2) 患者の夜間の過ごし方 <ul style="list-style-type: none"> ①家族との面会 ②就寝の準備 (3) 夜間の患者心理 <p>2) 夜間の看護の実際</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配膳、食事介助、下膳、食後薬の与薬場面、家族面会時の関わり、イブニングケア、ナースコール対応 (1) 夜間の看護の留意点 (2) 夜間における看護の優先順位の考え方 (3) 夜間の急変・緊急時の対応 (4) 睡眠導入への援助 <ul style="list-style-type: none"> (受け持ち患者の看護を通して学ぶことが望ましい) ①日中の病棟の環境の変化 ②病床の環境調整 ③患者の準備 (5) 火気点検、非常口点検場所と点検方法 (6) 夜間の報告体制 <p>3) 安全面への配慮</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 就寝後の環境調整 (2) 火気点検、非常口点検 (3) 重症患者・要注意患者の把握 (4) 夜間転倒防止対策
<p>3. 看護技術について見学および一部実施できる。</p>	<p>1) 科学的根拠に基づいた技術の実施</p> <p>2) 対象の発達段階や疾病・病状などを考慮した看護援助の実施</p>
<p>4. 看護単位の看護管理の実際を知ることができる。</p>	<p>1) 看護師長業務に対するオリエンテーションや見学の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 1) 病院理念、看護部の理念と病棟管理 2) 看護サービス提供のしくみ <ul style="list-style-type: none"> ①看護単位の機能 ②診療報酬と看護サービスの関係 3) 人材のマネジメント <ul style="list-style-type: none"> ①スタッフの教育研修、労働環境 ②職員の管理 4) 施設・設備環境のマネジメント <ul style="list-style-type: none"> ①施設、環境の管理 5) 物品のマネジメント <ul style="list-style-type: none"> ①物品、薬品の管理 ②医療機器、廃棄物などの管理

実習目標	実習内容
	6) 情報のマネジメント ①情報の種類と守秘義務 ②情報管理 7) リスクマネジメント ①医療安全と事故発生時の対応 ②災害時の備え 8) サービスの評価 患者満足度調査
5. 看護チーム内の連携が理解できる	1) 各勤務における勤務形態と役割 ・リーダー ・部屋持ち看護師 ・早出、遅出 ・その他 2) リーダー業務に対するオリエンテーションや見学の実施 1) 病棟（チーム）全体の患者の状態把握 2) 医師への報告、指示確認の方法 3) 緊急入院受け入れ時のメンバーへの伝達や業務確認 4) 看護ケア提供状況、スタッフの業務進行状況の確認 5) メンバーへの指導 6) 病棟（チーム）カンファレンス時の時間調整や司会進行 3) 継続看護 1) 報告・連絡・相談 （リーダー、チーム、多職種との調整場面） 2) 引き継ぎ（朝や夜勤者、休憩中など） 3) カンファレンス場面 4) 多職種
6. 看護者として自己の役割や目標を明確にすることができる。	1) チームの一員としての自覚と責任 2) タイムリーな報告・連絡・相談の実施 3) 看護師の報告・連絡・相談等の行動の意味づけ 4) チーム医療 ・多職種との連携、協働 5) 組織の中の看護師の位置づけ 6) 患者様と接する一つ一つの場面の積み重ねが病棟、病院の看護そのものであることを理解する。 7) 問題解決に向けた主体的取り組み
詳細は、実習要項参照	
2. 実習施設	

嬉野医療センター 4 東病棟、5 東病棟、6 東病棟、6 西病棟、7 東病棟、7 西病棟、
8 東病棟、8 西病棟

3. 実習期間

3 週間（12 日間）

履修条件

専門分野の単位履修ができていない学科目がある場合、関係する実習の履修ができないことがある。

参考文献

評価方法

実習出席状況、実習内容、評価基準に基づき評価する